

# 番匠川水系流域治水協議会

実績： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

< R 6. 1月末までの実績 >

流域にも視野を広げる  
(自分のためにも、みんなのためにも)

## 流域治水の広報

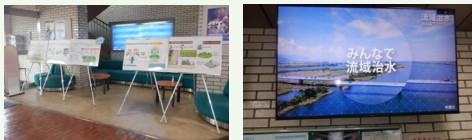
○各種防災会議、イベントなどにおいて流域治水に関する啓発活動を実施(11回、288人)【国】



○報道関係機関へ流域治水に関する啓発活動を実施(1回、7人)【国】



○パネルや動画で流域治水に関する啓発活動を実施(パネル6月・動画6~10月)【国】



○Twitterによる情報発信(10回)【国】



○災害時を想定した360° VR映像を活用した住民の防災意識の醸成(1回、30人)【県】

## 教育活動

○小学校、自治会等においてマイ・タイムラインづくりの開催(4回、88人)【国・県・市・河川協力団体】



○河川協力団体と流域治水を実践するための勉強会の開催(1回、10人)【国】



○報道機関活用した大雨対策の周知・啓発(3回、不特定多数)

○防災士養成研修(1回、56人)【県・気象台】  
○学校、自治会、事業所等への防災教育・防災講話等の開催(31回、1,005人)【県・市・気象台】

## リスク情報等の提供

○浸水想定区域、土砂災害計画区域等の公表(全地区(国)、24地区)【国・県】  
○洪水・土砂災害ハザードマップの更新・配布【市】  
○避難場所や経路等に関する情報の周知(ホームページに掲載、市LINEへの連携)【市】

## 訓練活動

○住民参加型の避難訓練を実施【県・市】(11月12日佐伯市内全域、約1.2万人)  
○ハザードマップの周知および住民の被害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組【市】

## 水防活動の支援

○災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化【市】

## 取組の実装

○個別貯留タンクを事務所職員で製作設置し周知に活用【佐伯河川国道事務所職員10人】



○河川協力団体に田んぼダムを紹介したところ、主旨に賛同されて試験運用を行った(A=6ha)【国・県】



## 計画策定

○防災指針(立地適正化計画)の作成・【市】  
○要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保【市】

### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

# 番匠川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和6年度の取組計画を①②③の別に記入(横断可)

流域にも視野を広げる  
(自分のためにも、みんなのためにも)

### 流域治水の広報

- 各種防災会議、イベントなどにおいて流域治水に関する啓発活動を実施(12回、370人)【国・県・市】
- 報道関係機関へ流域治水に関する啓発活動を実施(1回、12人)【国】
- パネルや動画で流域治水に関する啓発活動を実施(6月～10月)【国】
- SNS等での情報発信(15回)【国】
- 災害時を想定した360° VR映像を活用した住民の防災意識の醸成(1回、30人)【県】

### 教育活動

- 小学校、自治会等においてマイ・タイムラインづくりの開催(3回、70人)【国・県・市・河川協力団体】
- 河川協力団体と流域治水を实践するための勉強会の開催(2回、20人)【国】
- 報道機関を活用した大雨対策の周知・啓発【気象台】
- 防災士養成研修(1回、50人)【県・気象台】
- 学校、自治会、事業所等への防災教育・防災講話等の開催(33回、1,019人)【県・市・気象台】
- 防災ワークショップ【気象台】

### リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害計画区域等の公表(全地区、約40区域)【国・県】
- 洪水・土砂災害ハザードマップの更新・配布【市】
- 避難場所や経路等に関する情報の周知(ホームページに掲載、市LINEへの連携等)【市】
- 防災気象情報等の提供【気象台・県】(緊急速報「エリアメール」・Lアラート・NHK・Web説明会)(おおいた防災アプリ)

### 訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施【市】(11月10日佐伯市内全域、約1.5万人)
- ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組【市】

### 水防活動の支援

- 災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化【市】

### 取組の実装

- 田んぼダムの本格運用推進【県・市】
- 個別貯留タンク設置の推進【河川協力団体】

### 計画策定

- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保【市】

## ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

## ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

## ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

# 番匠川水系流域治水協議会

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
① 知る機会を増やす	<p>◎水災害、流域治水の広報   地域   個人   企業・団体  </p> <p>パネル・動画で流域治水の啓発 ●</p>	<p>● 報道関係機関へ流域治水の啓発</p>	<p>● イベントでの流域治水の啓発</p>	<p>● イベントでの流域治水の啓発</p>	
	<p>各種防災会議、イベントなどにおいて流域治水の取組を周知、随時SNS(X:旧Twitter)で情報発信</p>				
② 自分事と捉えることを促す	<p>◎リスク情報等の提供   地域   個人   企業・団体  </p> <p>浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップの更新、配布等</p> <p>指定緊急避難所・指定避難場所情報の周知、市民への情報提供、SNS連携</p> <p>防災気象情報の提供（エリアメール・Lアラート・NHK・Web説明会・おおいた防災アプリ）</p>				
	<p>◎教育活動   地域   個人   企業・団体  </p> <p>報道機関を活用した大雨対策の周知・啓発</p> <p>学校・自治会・企業等への防災教育、防災講話等の開催</p>				
	<p>● 河川協力団体と勉強会</p>	<p>● 防災ワークショップ</p>	<p>● マイ・タイムラインづくりの開催</p>	<p>● 防災士養成研修</p>	<p>● 河川協力団体と勉強会</p>
	<p>◎訓練活動   地域   個人  </p> <p>住民参加型の避難訓練 ●</p> <p>ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進</p>				
③ 行動を誘発する	<p>◎計画策定   地域   個人   企業・団体  </p> <p>要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保</p>				
	<p>◎水防活動の支援   地域   個人   企業・団体  </p> <p>災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化</p>				
	<p>◎取組の実装   地域   個人   団体  </p> <p>田んぼダムの本格運用推進・個別貯留タンク設置の推進</p>				